

「常緑広葉樹の落葉 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

イチョウやクヌギは、秋になると葉の色が変わり、冬になる前に落葉する。再び春になると、新芽が一斉に揃う。つまり、樹木丸ごと一気に葉を更新するわけだ。では、常緑樹の場合はどうだろうか？



写真は、私の自転車通勤路の一風景である。大手町の駅前にあたる場所で、大きなオフィスビルの一角なので、普段は路面がかなりきれいに掃かれている。

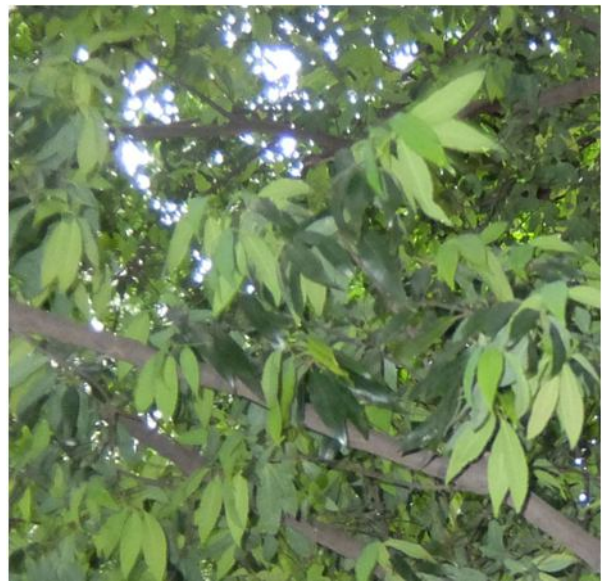


しかし今の時期になると、毎朝歩道にたくさんの落葉が見られるようになる。硬くて緑色の濃い葉が多い。中には茶色く変色しているものもある。落葉の正体は、

街路樹として植えられている、「シラカシ」である。
シラカシ *Quercus myrsinifolia* はブナ科の樹木の一つで、常緑樹である。ブナ科の樹木の多くは、果実が「ドングリ」と言われるものである。ブナ科の樹木はすべて広葉樹だが、面白いことに、同じブナ科の中に、常緑樹と落葉樹が混在している。



上図(水彩 / C.Tanaka)は、すべて「ブナ科の常緑樹になるドングリ」である。左から、**シラカシ**、**スダジイ**、**マテバシイ**となる。シラカシのドングリの特徴は、殻斗(ドングリの帽子)が、同心円状の模様になっていることだ。



大手町のシラカシの葉を観察すると、はっきりと2色にわかれていることがわかる。枝の根元のものは色が濃く「サップグリーン」という色だ。枝先のもは色が薄く「リーフグリーン」という色をしている。触ってみると、色の濃いものは硬く、色の薄いものはやわらかい。冬を越した古い葉と、この春に芽吹いた新しい葉が、枝に混在しているのだ。どうやら、常緑広葉樹の落葉は、春のようだ。まずは、身近な他の樹木でも確かめて、授業に生かそうと思った。